

令和元年度第3回米沢ブランド戦略会議 会議録

1 日 時 令和2年3月5日(木) 10:00～12:00

2 場 所 米沢市役所3階庁議室

(出席委員)

戦略会議：柴田正孝会長、佐藤英司副会長、近藤哲夫委員、遠藤正紀委員、今村元一委員、坂川好則委員、鈴木里佳委員、松本昭弘委員、吉澤彰浩委員、本多作之助委員、新田源太郎委員、安部里美委員、安部宏海委員、奥山佳奈委員

事務局：菅野紀生産業部長、本間米沢ブランド戦略課長、根津米沢ブランド戦略課長補佐兼米沢ブランド推進主査、佐藤米沢ブランド戦略課主任

アドバイザー：武発米沢ブランド戦略アドバイザー

3 会議録(要点のみ)

(1) 開会

(2) 議事

(3) 閉会

(議長)

・議事第1番、報告。TEAM NEXT YONEZAWAの登録状況について。
※事務局、資料①について説明。

(議長)

・3年後までに登録数を倍にしたいという市全体の目標もあるので、委員各位のお声掛けをお願いします。
・米沢ブランド戦略事業関係令和2年度当初予算について。

(事務局)

・予算額は94,335千円と、昨年と比較して1,759千円増加。米沢ブランド戦略事業負担金4000万は、商工課の技を起点としたモデル事業、観光課のインバウンド事業、農林課の販路開拓支援事業となるので、ブランド戦略課としての予算はそれらを差し引いた5,433万5千円。昨年と比較すると55万8千円のマイナスだが、今年度は専用ウェブサイトを英語化して184万かかり、来年度はそれがなくなるので、差し引くと128万2千円の増となる。

・新年度特に力を入れようとしているのは、今年度に引き続き多くのTNYにAWARDに申請していただくこと、その中から米沢品質に相応しいAWARDを選定すること、TNYの登録拡大、受賞者への更なる支援。今年度TNYへの研修が米沢ブランド運営支援業務として、審査会経費やムービー、KPI調査など一括して博報堂に委託したが、次年度は内容の自由度と機動力を高めるため、別枠で予算化している。新登録団体へのそもそも発想セミナーは引き続き開催する。次のステージへ向かうTNYへは更なるスキルアップの他、どのような研修がいいのかプロジェクトチームや永井審査員長と相談

しながら調整していきたい。審査員によるセミナーも、審査員と日程を調整しながら開催したい。交流会も兼ねたマッチングイベントは、A+Bという単なる足し算ではなく掛け算になるように、どのような内容で開催するのが効果的か検討して実施したい。

- ・様々な団体や業種からTNYに登録してもらうために、登録することでのメリットやインセンティブがよりイメージできるような発信が必要。市の施設の利用料が少しでも減免になればいい、という意見も出ている。委員の皆様からも提案があれば助かるのでお願いしたい。

- ・新年度も新たに選出されるAWARDについては、様々な媒体を通して発信していきたい。AWARDに選ばれなかった申請者には、フォローアップを実施する。今年以上に審査員に来ていただけるように旅費等を確保している。

- ・ポスターの在庫も少なくなってきたので、増刷するか新たに制作するか、プロジェクトチームと永井さんと相談して決める。

(委員)

- ・宣伝して終わりではなく、その後のフォローや次にどうするか考えているのが好感を持てる。今後も米沢の地域ブランドや成長していくような予算の使い方をしてほしい。

- ・今まで様子見していた人がTNYに登録するようになっている。まだ米沢を変える企業が埋まっているはずなので、発掘してほしい。

(委員)

- ・AWARDのロゴを商品に付けたい等の話が来ているのか？

(事務局)

- ・AWARDを受賞した商品に付けられるロゴマークをデザイナーと相談中。

(委員)

- ・今皆が作っているものをどうすれば売れるようにできるか。そもそも発想ワークショップは、すごく基本的な内容を研修しているが、中間層に向けた具体的な話、レベルアップできるセミナーなどがないと、AWARDに繋がらないと思う。

(議長)

- ・米沢品質AWARD2019実施後の内容について。

※事務局、資料③について説明。

(議長)

- ・ものづくりではない企業や団体はどこを目指せばいいか？ 受け手はどのように評価すればいいか？それが今後の課題になると思う。

(委員)

- ・ AWARD一次審査通過者以外にも挑戦と創造が溢れていると思うので、もっと掘り起こす。
- ・ 1年目も重要だが、2年目の発信がうまくいかないと尻すぼみになってしまう。
- ・ TNYに対して、どのような方向性で行くか色々な面でのサポートが必要。

(委員)

- ・ AWARDの賞の価値を高めなくてはならない。

(委員)

- ・ 2年目が今後の活動を進める上で大事になる。挑戦と創造の思想を如何に市民に定着させるか。

(委員)

- ・ 米沢品質は挑戦と創造の結果なので、長く続けられるようなサポートを公でしなければならない。TNY同士が磨き合った結果ブランドができた、という流れにした方が長続きする。

(委員)

- ・ 2、30年後の米沢を見据えた動きをしなければならない。対外アピールのためには、市内でブランドを確立させなければならない。市民の方々が新しく参画し、発言でき、アピールできるようにしなければならない。市外に対しては、市が一丸となった発信をしていく。ふるさとが持っているものを皆が改めて認識することが重要。

(委員)

- ・ トランヴェール等の評価はあったが、それがAWARDと結びついていないという意見があった。事務局からも、AWARDと反響が結びつくようなテコ入れをしなければならない。
- ・ それぞれの広告にかかった経費と、それによる効果が視覚的にわかるといい。例えば再生回数がわかるYouTubeなど。

(委員)

- ・ AWARDに出にくい物販ではないところなどは、どうやってAWARDに出すか。

(委員)

- ・ 商品は評価しやすく、米沢への貢献にも直結しやすい。TNYにはサービスや教育などの分野も登録されているので、そこも評価してほしい。
- ・ 受賞したらすぐに商品などにロゴマークを使えるようにしてほしい。
- ・ AWARDの会場に子供たちを呼んで地元企業について知ってもらおうと、人口流出の防止に繋がるのではないかと。

(委員)

- ・マスコミは、初物は盛り上げるが2、3回以降になると取り上げなくなる。
- ・米沢品質は市民運動だと思うので、まずは市内に拡大していく。

(委員)

- ・サービスについてのAWARDは出しづらい。そこをどうするかが今後の課題。
- ・AWARDのプレゼンテーションを一般公開し、子供たちや学生、一般の方が参加できる場を作りたい。
- ・2年目はAWARDを取ったことによるインセンティブや、社内教育に繋がったなどの話を発信することによって、AWARDの取り組み自体も重く深く幅も出てくる。「こういう効果があるから、TNYがもっと必要だ」という意識があるといい。目標を数値化すると市民にも達成度が見えやすい。挑戦した結果何を得られたか、挑戦者の声も出していく。

(議長)

- ・行政経営市民会議でも、TNYの登録数を目標値にしていると思うが？

(事務局)

- ・TNY登録数の目標数値は300を想定。達成するために如何に取り組むか考えていきたい。

(委員)

- ・地元の学生に地元の企業が何をしているか知っていただければ、地元に興味や愛着が深まるのではないかな。
- ・次のAWARD申請までの活動が、どれだけ盛り上がるかが重要。受賞者にリーダーとして発信していただく。
- ・TNYの横の繋がりを刺激する。

(委員)

- ・米沢品質を取った人たちが主体的となって発信すれば、企業間の交流が生まれるのではないかな。
- ・ハッシュタグで検索してもヒットしておらず、市民への告知が少ないと感じる。若い世代だと新聞などを読まないなので、SNSの方が効果的。SNSであれば、インバウンドの専門家などにも行き当たる可能性があり、また簡単なアプローチで広まっていく。

(委員)

- ・市民調査員が増えていない。現在、市民にそこまで広がっていない。

(議長)

- ・部長、アドバイザー、課長からも一言ずつ感想を。

(事務局)

- ・登録者数増加に向けて、調査員の募集もしっかり行っていく。
- ・2年目に如何に取り組むかが重要になると思う。認知度も低いので、認知を如何に浸透させていくか戦略会議の皆さんと進めていきたい。

(事務局)

- ・この事業の目的は市民に米沢を知ってもらうこと。そのために情報発信を行い、TNYの登録者数も増やす。周りを巻き込んで拡大する運動体でありたい。国のまち、ひと、しごと創生総合計画でも、安定した雇用を作る地域から、稼ぐ地域へと変化してきている。本市としても、稼ぐ力を目指していかなければならない。

(事務局)

- ・皆さんがやりたいことに事務局が優先順位を付け、TNYそれぞれが活性化していくようにする。ピンチのときこそ何かを生み出すことに繋がってほしい。

(議長)

- ・各委員の意見を参考に、2年目に移していければいい。
 - ・議事第2番、協議。米沢品質AWARD2020実施スケジュールについて。
- ※事務局、資料④について説明。

(議長)

- ・ある程度内容の工夫が必要にせよ、スケジュールは資料の通り了承する。

(事務局)

- ・以上で令和元年度第3回米沢ブランド戦略会議を終了する。